PR

おはようございます

JA松本ハイランド山辺支所
金融共済課渉外係 西山（にしやま） 匠（たくみ）

普段は複合渉外として、貯金、投資信託、共済の推進に携わっています。最近ではNISAに関するご相談が多く、投資経験のない方にもご理解いただけるよう、昨今のインフレなど社会情勢を踏まえて分かりやすくご説明し、お役に立てるよう努めています。今後も金融に関する知識を習得し、組合員の皆さまにいち早く情報提供できるよう、日々の活動に励んでまいります。

健康Q&A

細菌感染の可能性、速やかに受診を

ふくらはぎが腫れて痛い

Q **今朝から右のふくらはぎが赤く腫れて痛いです。ぶつけた覚えはないのですが、39度の熱もあり、体がだるいです。家で様子を見ていても良いでしょうか？（68歳、男性）**

A 皮膚やその下の脂肪組織に起きる細菌感染症かもしれません。発熱や体のだるさもあるのであれば、医療機関を受診することをおすすめします。

症状からまず疑われる病気は蜂窩織炎（ほうかしきえん）というもので、炎症を起こした部位が痛み、熱を持ち、赤く腫れます。皮膚にできたわずかな傷口から菌が入ることもありますが、はっきりとした傷がない場合もあります。蜂窩織炎であれば、抗菌薬の投与と患部の安静、足の場合には少し高くして休むことで症状は少しずつ改善していきます。

一方で、抗菌薬を使うだけでは症状が改善しない、壊死（えし）性筋膜炎という感染症も存在します。手足の痛みや腫れ、発熱など蜂窩織炎とよく似た症状が見られますが、特に溶血性レンサ球菌によって発症する劇症型の場合には、数十時間の経過で全身のさまざまな臓器に障害を起こし、死に至ることがあります。「人食いバクテリア」とも呼ばれ、近年増えてきている病気です。この場合には、細菌に侵された部分を切り取る手術や、全身的な治療が必要となります。

足の症状に加え、食欲がない、呼吸が速い、あるいは息苦しい、ぐったりしているなど、全身の症状が見られる場合には、自宅で様子を見ずに速やかに受診してください。

（JA長野厚生連長野松代総合病院
形成外科部長　宮澤季美江）

お知らせボード

★11日に農業者年金オンラインセミナー

農業者年金は、国民年金の第1号被保険者で年間60日以上農業に従事していれば誰でも加入できる、国民年金（基礎年金）に上乗せした公的年金制度です。自分の年金を積み立てながら各種の税制優遇措置を受けることができます。運用に当たっている独立行政法人農業者年金基金が11日（水）午後3～4時、Zoomによるオンラインセミナーを開催します。参加は無料で先着500人限定。右のQRコードから申し込みを。㊐JA長野中央会営農農政部
☎026・236・2019

私たちの国で消費するたべものはできるだけこの国で生産する
国消国産にJAグループは取り組んでいます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

食と農で地域に笑顔をつくります

～組合員・地域とともに食と農を支える協同の力の発揮

スーパーなどの小売店の店頭から米が消え、時ならぬコメ騒動となった今年の夏。その後、本年産の新米が出回り、「欲しくても手に入らない」といった事態はひとまず解消されましたが、価格は戻ってはいません。今、米の生産、流通はどうなっているのでしょうか。改めてたどってみました。

危うい米の生産基盤

「令和の米騒動」で浮き彫りに

9月下旬、長野県内最大の米産地を抱えるJA上伊那。同JA管内の拠点施設の一つ南箕輪カントリーエレベーター（南箕輪村）に、村内の稲作の大半を引き受ける農事組合法人・まっくんファームから、収穫した米を積んだトラックが次々とやって来ては荷受けホッパーに下ろしていきました。

荷受け口に降ろされる収穫した米（籾）
（JA上伊那南箕輪カントリーエレベーターで）

カントリーエレベーターは、収穫された籾（もみ）の乾燥機と貯蔵用のサイロをエレベーターでつないだ大型の保管施設。本来は籾の状態で長期保存し、需要に合わせた供給を担う中核施設ですが、この日、同エレベーターが受け入れた籾は、既に行く先が決まっており、早々に籾すり機で玄米にして出荷するそうです。

広がる事前契約

JA全農長野米穀課によると、県内JAに出荷された米（籾または玄米）は、それぞれの農業倉庫（102カ所）やカントリーエレベーター（14カ所）に納められ、翌年10月にかけて順次、米卸業者を通じて県内外のスーパーや外食、コンビニなど契約先に精米して届けていきます。以前は卸業者と収穫後に契約・販売する形が中心でしたが、現在は、卸業者を通す形は変わりませんが、実際に加工、販売する実需者へ直接営業し、収穫より前に事前契約をすることに比重が移っています。計画的な生産・販売を通して安定した収益を確保するためです。

需要も農家も減少 在庫量が価格左右

米の流通は食糧管理法（1995年まで）の下、国の全量管理の時代が長く続いていました。しかし、食糧法（95年）、同改正法（2004年）を経て、現在では年間で精米20㌧以上を扱う場合は事業の届け出と帳簿の記載義務がある以外は大きな規制はなくなっています。その分、流通の各段階で介入する事業者の思惑が反映する余地が大きくなっているとも言えるでしょう。JAや、JAから集荷する全農では、販売先が決まった事前契約に力を入れており、1年1作の米生産のため突発的な需要に対応する余力は少ないのが実情です。

主食としての米の需要は人口減少や嗜好（しこう）の変化もあって減少傾向が続いています。農林水産省の資料によれば2001～02年に877万㌧だった需要量は21～22年には702万㌧に。「最近は毎年10万㌧程度」減少と指摘しています＝**グラフ1参照**。

一方、農家の収入に直結する販売価格は同じ時期、精米60㌔当たり1万7293円（01年産）から1万2804円（21年産）へ。価格は緩やかに低下していますが、近年は在庫量に応じて価格が大きく変動していることがうかがえます＝**グラフ2**。

ギリギリの水準

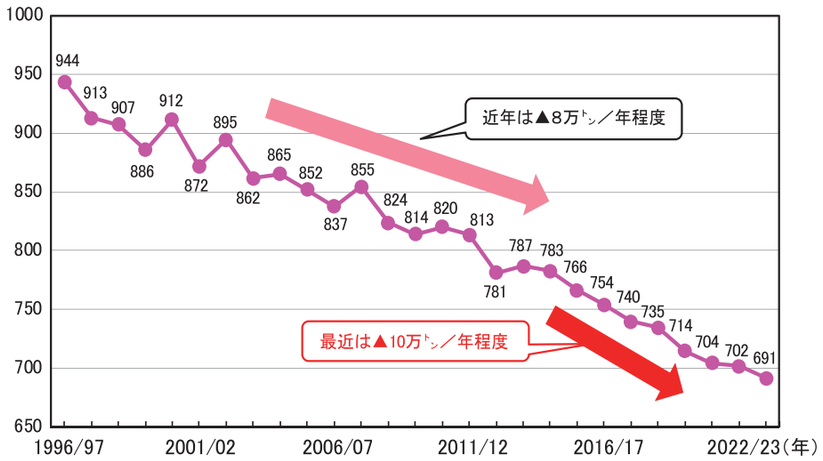
米生産にかかるコストの上昇と民間在庫の減少を受けて本年産の価格は急騰しています。JA全農長野は9月末、各JAに仮払いする※概算金の額を主力のコシヒカリの場合、1万6290円（玄米60㌔当たり）としました。前年比30・8％増で、1万6000円台は26年ぶりの水準です。それでも生産コストからみれば「ギリギリの水準」*1（JA全農長野）です。

米の生産農家は一貫して減少しています。農水省の「世界農林業センサス」によれば、稲作作付け農家数（販売農家）は全国で1965年の488万4954戸（長野県は19万779戸）から、2020年には69万8543戸（同2万4936戸）へ55年間で86％減少＝**グラフ3**。2010年からの10年間でも40％減りました。同時に高齢化も進み、20年時点で基幹的農業従事者のうち60歳以上が80％を占めています。

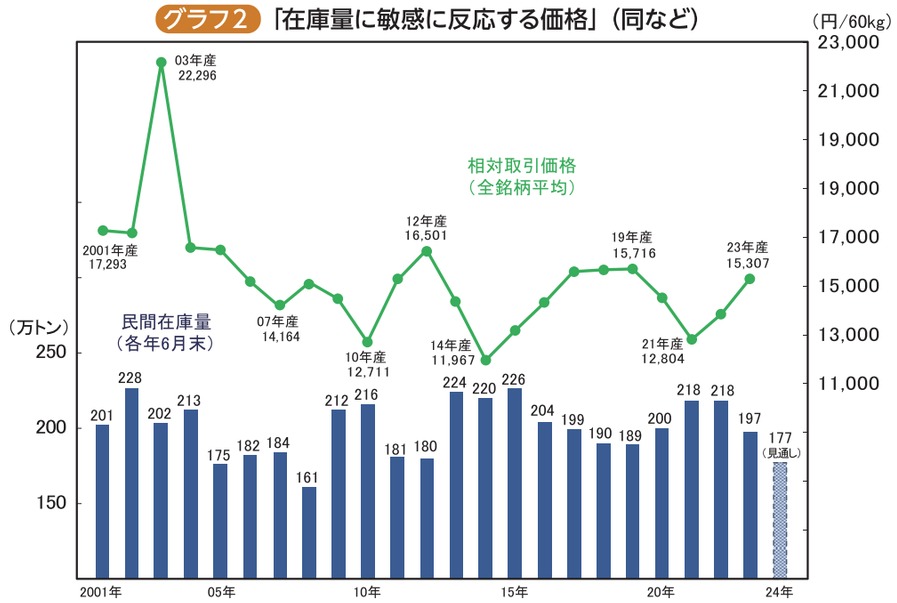
持続可能な稲作はどうあるべきなのか。需要減少に対応した計画生産（生産調整）*2の在り方を含め、さまざまな論議がされています。消費者向けに安定供給の主役を担うと期待される全農は「食べることが一番の応援になる」と訴えています。今夏の「コメ騒動」は、生産基盤の危うさを改めて浮き彫りにしていることは確かです。

※【概算金】 全農は、農家からJAを通して集めた米を翌年秋（10月末）ごろまで1年余をかけて販売します。このため、集荷時に概算金を払った上、販売代金から通年で発生する経費（保管料、運賃など）を差し引き、販売終了後に本精算する「共同計算」という仕組みで支払っています。農家にとっては確実な販売で、変動する価格や流通経費を公平に精算できるメリットがあります。

グラフ1 「減り続ける主食用米の需要量」
（「米をめぐる状況について」農林水産省、2024年8月から）

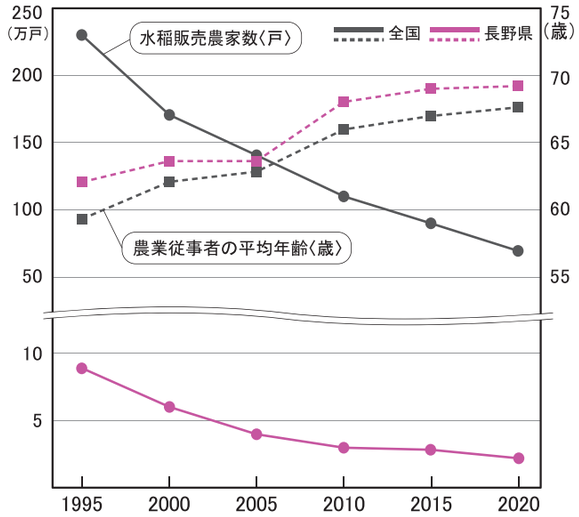


グラフ2 「在庫量に敏感に反応する価格」（同など）



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（2023年産は出回りから6年6月までの速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

グラフ3 減り続ける水稲販売農家数〈戸〉と高齢化する農家



※販売農家、2015年からは個人経営体／農林業センサス（農林水産省）から

＊1 米の生産コスト 農水省が算出している米生産費によると2022年産で長野県は1万6979円（玄米60㌔当たり、個人経営）。傾斜地が多く、一筆当たりの面積も小さく、作業の効率化が難しいため、全国平均の1万5273円（同）より高くなっています。

＊2 米の計画生産 国（農水省）の需給予測に基づき各都道府県が生産者団体とともにつくる協議会で生産量の目安を設定しています。

JA長野県
JA長野中央会 営農農政部
〒380-0826 長野市北石堂町1177-3
TEL.026-236-2030 FAX.026-236-2008

いいJAん! 信州
https://www.iijan.or.jp/

長野県のおいしい食べ方
公式X（旧Twitter）